



原町本店
〒975-0026
南相馬市原町区栄町2-83
TEL:0244-24-2929

いわき店
〒970-8026
いわき市平三倉69-8 第2地産ビル1F
TEL:0246-85-5298

みなさまこんにちは。例年はないほど梅雨入りが早いということで、ジメジメの嫌な季節になってしまいましたね。この季節は、お着物にとってもとても嫌な季節です。桐のタンスに丁寧にしても、着物にカビが生えてしまったなどの経験がある方も多いと思いますが、着物にとって一番の大敵はやはり湿気なんですね。着物にカビが生える原因は、「日本の気候の特徴」と「着物の生地 の性質」の両方にあります。まず日本の気候は世界にもまれに見る高温多湿地帯です。ちょっと油断すれば少しの水分と養分だけで、一気にカビの温床となってしまう可能性があります。また、着物の生地には全て「地糊」が入っているのですが、その地糊が湿気によって、カビの温床となってしまうのです。湿気を避けることを第一に考えると、なるべく湿気がこない風通しのよい場所で着物を保管することはもちろんですが、日ごろから意識して引き出しを開けるようにして、風を通すようにするとよいでしょう。もちろん乾燥している時期の虫干しも大切ですが、現代社会の忙しい中ではなかなか難しいかと思ひます。当店では、着物を湿気から守るためのジッパー付きのフィルムパックや乾燥剤などのお取り扱いの他、カビなどの臭いを取るオゾン消臭なども行っております。カビはあっという間に広がりますので、気づいたらすぐにご相談ください。うとうとい季節ですが、今月も笑顔でみなさまをお迎えいたします！

< きものカラーコーディネート講座 >

昨年から勉強を始めた「きものカラーコーディネート講座」の応用科が無事終了しました。基礎科から始まり、途中コロナ禍で一部講座がリモートになりましたが、とても楽しく学ぶことができました。



講座では、雑誌の切り抜きから自分が好きなイメージカラーをカラーージュして発表しました。私はエレガントなイメージカラーを...



それぞれの宿題を並べて比べてみました。同じイメージでも人によって使う色は様々です。



最終課題のカラーコーディネートの発表もクリアし、修了証をいただきました♡

きものカラーコーディネーター協会が取り組んでいる、実践的なカリキュラムの一つ「Re Style(リ スタイル)」同じきものと帯に、帯締めと帯揚げでイメージを変えていく作業は、講座の中でも一番盛り上がりやすい。



大量の帯揚げと帯締めに大興奮です



< よろづ屋 きものがたり～小千谷縮 >

全国の紬の産地のお話や、きものにまつわるあれこれをご紹介しますコーナー
第6回目は、夏の麻織物の代名詞！小千谷縮

今回は、夏に着たい麻織物「小千谷縮」をご紹介します。小千谷縮は江戸時代から続く、新潟県の小千谷地方で作られる麻100%の着物生地です。小千谷縮の材料は苧麻(ちよま)という上質の麻です。これを細かく砕いてつなぎ合わせ、一本の長い糸を作ります。準備された経糸(たていと)に、模様付けされた緯糸(よこいと)一本一本柄を合わせながら丹念に織ります。



お湯の中で丹念に布を揉み込んでいく湯もみ

一尺織るのに900回も手を動かすといわれるほど手間のかかる作業だそうです。昔と一切変わらない伝統的な技法で作られたもの(高級車を買える値段です)が重要無形文化財に指定されています。指定の要件は以下の通りです。

- ・すべて苧麻を手うみした糸を使用すること。
- ・紺模様を付ける場合は、手くびりによること。
- ・いざり機で織ること。
- ・しぼとりをする場合は、湯もみ、足ぶみによること。
- ・さらしは、雪さらしによること。



雪さらしは、小千谷に春を呼ぶ風物詩

伝統的な技法によるものの他にも、効率を重視して工業的に作られたものなど様々な商品が展開されています。その中でも一番リーズナブルなのは機械製織の無地の商品です。夏の浴衣を卒業したら、小千谷縮で夏のおしゃれを楽しんでみませんか？

流れるような縦シボが肌と生地間に空間を作るので涼しさUPです。

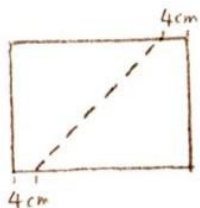


体型別、着付けのコツ

ふくよかさんの
のっぼさん
おやせさん

着物には、体形の悩みをカバーしてくれるさまざまな知恵が詰まっています。ふくよかでもおやせしても、ほんの少しの工夫で美しい着姿になります。

～いかり肩なので着物が似合いません～
「長襦袢の衿に固い衿芯を入れてませんか？」



①A4のコピー用紙を対角線上に折る。



②衿幅より狭く折り畳んでいく。

半衿に硬い衿芯が入っていると、よけいこいかり肩に見えてしまいます。差し込み芯を使っているなら一度衿芯を取ってみてください。首回りが優しく見えます。それでも衿がフカフカして不安な方は、首回りのところだけ、A4サイズのコピー用紙を左の図のように衿幅より狭く畳んで、半衿の内側に入れます。

参考文献:着物の辞典 大久保信子監修



今月のおススメ!

アタバッグ
10,450円(税込)

今回は、夏のお着物や浴衣におススメの「アタバッグ」です。アタバッグとは、インドネシアに自生しているシダ科の植物『アタ』を、職人さんが編んで作る民芸品のバッグの事です。アタバッグはおしゃれで可愛いということで人気がありますが、それだけではなくなんと100年使えると言われていたほど強度があり形崩れしにくいそうです。それは、バッグを作るときの燻蒸という過程で防虫効果と強度を強めているからだということです。乾燥させたアタのつるを職人さんが、丁寧に編み込んでいき、一週間ほど乾燥させます。その後、かまどで燻します。これが燻蒸という作業で、バッグの強度を強めるそうです。アタは油分が多く滑らかなので、一般的な自然素材雑貨と比較しても耐水性、耐久性が高いといわれています。中袋は外すこともできますので、その時のお着物やお洋服に合わせて変えてみるのも楽しいですね。夏に涼し気でコーディネート幅も広がるアタバッグ、おススメの商品です。

・・・若女将のつぶやき・・・

おうち時間が大好きな私の休日は、まずお掃除をして家の中をすっきりさせるところから始まります。お掃除が何より大好きなので、ストレス解消も兼ねています。他には、野菜を下ごしらえして冷凍保存したり、毎日のご飯づくりが楽になるような準備をまとめてします。買い物も休日しかできないので、まとめ買いです。毎日のご飯はお味噌汁があれば、おかずは簡単な物で十分なので、いたってシンプルです(笑)
最近のお気に入り、G.WIに飯館村のイベント「山の向こうから」で購入したお椀です。丁寧に手作りされたお椀でいただくお味噌汁は100倍美味しく感じます。

